

月刊 まち・コミ 2010年8・9月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>
出石市民農園で10月下旬、丹波黒の枝豆を収穫します。
ご購入による応援をお願いしております。詳しくは同封のチラシをご覧ください。



● 今月の注目記事 ● P1～P4 御菅西地区再建状況 ～震災から16年～

御菅西地区再建状況 ～震災から16年～

震災から約16年経った2010年9月2日、まち・コミは昨年(2009年9月3日)に引き続き、御菅西地区(長田区御蔵通5・6丁目)における再建調査を行いました。これは、震災から復興していくまちの様子を記録し、これからのまちづくりに活かしていきたいからです。

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災によって、シューズ加工や鉄工所等の町工場の多かった御菅西地区は、約8割が延焼するという甚大な被害を受けました。震災の被害から復興した町並みは、震災前とは大きく変わりました。今号では、震災から16年を迎える御菅西地区の再建状況について報告します。

今回の調査はインターンシップで、8月末から12日間まち・コミに来てくれた、明石工業高等専門学校建築学科4年生の上田淳史君が担当してくれました。



御菅西地区の建物の変遷

前回調査（2009年9月3日）からの変化

震災から16年も経っているためか、今までの記録の中で、最も変化の少ない調査結果となりました。

	住宅	店舗	工場
1995年1月	289	74	58
	69%	18%	14%
2004年10月	170	42	21
	73%	18%	9%
2009年9月	249	46	19
	79%	15%	6%
2010年9月	250	46	18
	79%	15%	6%

具体的には新たに1軒が新築で入居され、戸建て2軒の表札が変わっていました。また店舗には増減などの変化はありませんでしたが、工場の空き物件が1軒ありました。その他にも、前回の調査では更地で整備されていなかった駐車場がアスファルトで綺麗に整備されていました。

建物用途別 軒数と割合の変化



1994年12月(震災前)



2005年1月6日

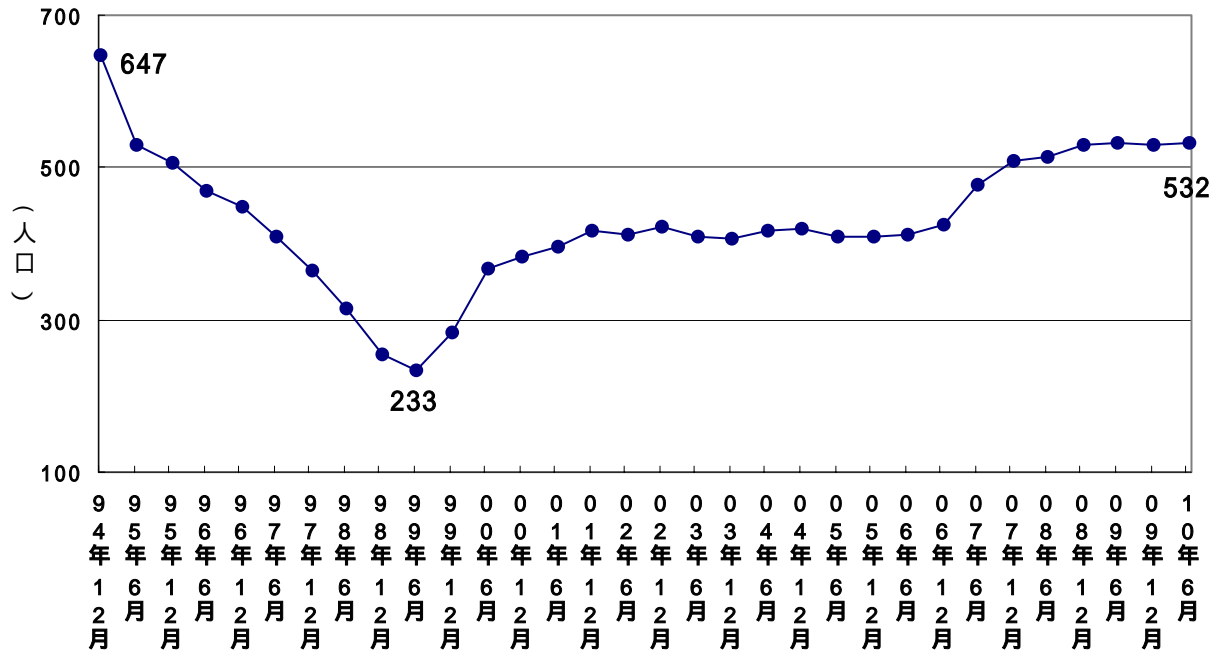
震災前の町並み



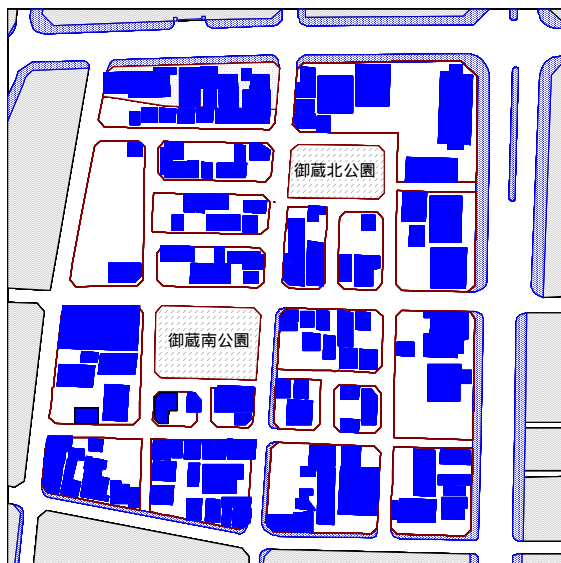
御菅西地区は、御蔵通5丁目(調査エリアの東半分)には高層な建物があり、6丁目(同じく西半分)には戸建て住宅が多く建てられています。

建物の高さが偏っているように見えました。これでは地域によって人口も偏ってしまい、結果その地域での活気にも違いが出てきてしまうのではないかと思ったので、住宅として使われている建物で、何階建てが何棟あるのかを調査することにしました。

御蔵西地区人口動向 (1994年12月～2010年6月)



神戸市企画調整局総合計画課発表の毎月推計人口を元に作成



2009年9月3日(昨年の調査)

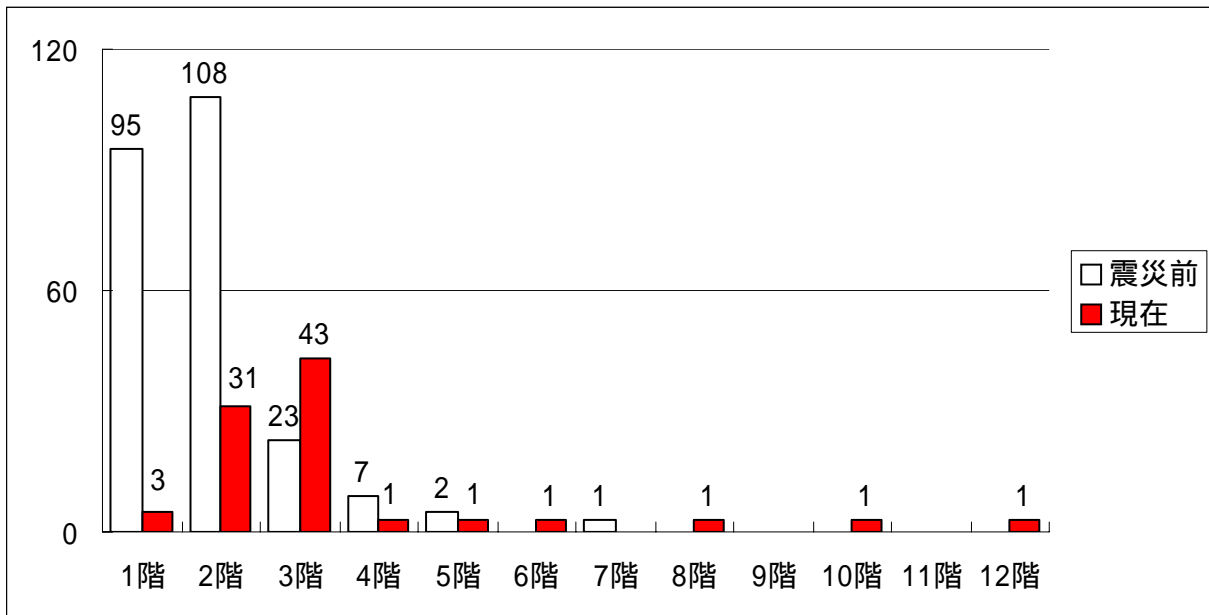
実際に歩いて調査をしました。5階以上の建物は5丁目の北と南にのみある事が分かりました。また6丁目北に関しては4階以上の建物はなく大半が3階か2階建てであり、6丁目南にも4階建てが一棟あるのみでした。やはり5丁目には5階以上の高い建物が多く、6丁目には3階建て以下の低い建物が多いことが分かりました。



2010年9月2日(今回の調査)

今回の調査図にある数字は、建物の階数を示します。(5階以上の住宅として使われている建物のみ明記)

御菅西地区の建物階数の変遷



2010年9月29日調べ

住宅として使われている建物のみを調べました

階数	震災前 236棟中 (%)	現在 83棟中 (%)
1	40.2	3.6
2	45.8	37.3
3	9.7	51.8
4	3.0	1.2
5	0.8	1.2
6	0.0	1.2
7	0.4	0.0
8	0.0	1.2
9	0.0	0.0
10	0.0	1.2
11	0.0	0.0
12	0.0	1.2

震災前の建物は1階建と2階建で全体の86%を占めていたのが、現在は1階建が3.6%にまで減り、2階建と3階建で89.1%となっています。このことから、震災後に建てられた戸建て住宅の階数が高くなっていることがわかります。これは、区画整理事業の減歩によって震災前より土地が小さくなり、再建時には震災前の建物が建てられたときより建坪率による制限が厳しくなったために階数を増やし、空間を確保しようとしたことが理由として考えられます。

また、3ページに掲載している人口動向の折れ線グラフを見ると、震災前の人口の82%が回復していることがわかります。一方、建物の棟数は35%止まりです。高層住宅への入居者が多いことがうかがわれます。

過去の再建調査について

まち・コミによる御菅西地区再建調査の記録は、インターネットで公開しています。「まち・コミブログ」に一覧を掲載していますので、まずは以下のURLにアクセスし、ご覧ください。



「御蔵地区の阪神・淡路大震災からの復興の状況(月刊まち・コミの記録)」
<http://machicomiblog42.fc2.com/blog-entry-594.html>

また、ご希望の方へはお送りいたしますので、お気軽にご連絡ください。

まち・コミ news



台湾へのツアー開催！

台日交流古民家移築事業の関係者が集い、完成を祝いました。

7月23日～27日、台日交流古民家完成体験ツアーに18人のメンバーで行って来ました。24日、ツアーのメイン行事となる、淡水鎮主催の歓迎式典がありました。

移築の土地の手配、建築工事等、いつもお世話になっている蔡葉偉(淡水鎮鎮長)をはじめ、周錫璋(台北縣知事)が迎えてくださいました。また、司馬遼太郎氏の「街道をゆく・台湾紀行」において、「老台北(ラオタイペイ)」という愛称で随所に登場する蔡焜燦(さい・こんさん)氏も、励ましに駆けつけてくださいました。建築工事にボランティア参加した台湾の学生、移築へのプロセスを支えてくれた方、被災地南投縣や台中の方、滞在中日本語を話してくださったり、差し入れを持ってきてくれた近所のご婦人が、日本からのツアーメンバーに会うために来てくださいました。参加者は、100人以上に上りました。

式典の中で、台湾の方々是世界の楽器を演奏してくださいました。日本側の参加者からは、塩崎賢明教授(神戸大学大学院工学研究科)が、「まちづくりの国際視野 - 古民家の移築の観点から - 」というテーマでお話をしてくださいました。その後は、竹内千恵子さん(元御蔵通5・6・7丁目づくり協議会副会長)によるお茶の御接待、廣井昌利さん(出石町鳥居地区区長)から、出石神社の神事の時、神に仕える前に奏でられる笛を披露していただき、和やかに交流がもたれました。そして、陳舜臣様からの書籍、そして、成瀬國晴先生が描かれた大飯町若州一滴文庫の絵が贈られました。

最後に、昨年12月に歌手の李浩麗さん達とこの古民家を訪れたメンバーから託されたこいのぼりの贈呈。蔡焜燦氏を先頭に「こいのぼり」(作詞不詳、弘田龍太郎作曲)を歌いながら揚げました。



室内の様子。古民家移築に関わった大勢の人が集まりました。



最後に集合写真を撮影しました。周辺の工事が終了してからの正式オープンに期待が高まります。

平成27年度以降 復興住宅の住民“また”住み替え？ - 神戸市借上公営住宅状況 -

9月22日、兵庫県震災復興研究センター主催の勉強会「借上住宅」の住み替え強制は、居住権の侵害」に行きました。そこで知った3805戸ある神戸市の借上公営住宅の状況をご報告します。

神戸市は平成22年6月に「第2次市営住宅マネジメント計画（以下、計画）」を発表しました。

参考：<http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/house/information/publichouse/plan02.html>

平成22年8月借上住宅住民に配付された文書「神戸市第2次市営住宅マネジメント計画のお知らせ」には、

「借上住宅は、震災により住宅が大量に滅失したことを受け、20年の期限で民間等の所有者が建設した住宅を市営住宅として借り上げたものです。

借上住宅を含む復興住宅にお住まいの被災者が減少している状況を踏まえ、契約にしたがって所有者へ返還していく必要があります。入居者については、ご意見やご希望を聞きながら、他の市営住宅をあっせんし、円滑に移転していただけるよう取り組みます。所有者については、返還後、所有者による賃貸経営へと円滑な移行が図られるよう早い段階から協議を進めます。」と書かれています。

また、計画には、

「震災後に被災者に対する受け皿住宅として、民間等から借り上げた「借上住宅」は107団地 3,805戸あり、市営住宅全体の約7%を

占めている。

これらの住宅は、震災後の一時的な需要増に対応するため臨時的に供給したものであり、20年の賃貸借契約期間が平成27年度から順次満了を迎え、平成29～31年度に集中するため、募集面、入居面などを踏まえた円滑な返還が求められる。」とあります。

契約満了年度別借上戸数（計画より）

	団地数	管理戸数
27年度	1団地	158戸
28年度	2団地	145戸
29年度	30団地	675戸
30年度	51団地	1409戸
31年度	20団地	1131戸
32年度	3団地	180戸
33年度	1団地	10戸
35年度	1団地	97戸
	109団地	3805戸

借上住宅所有者別管理戸数（計画より）

	団地数	管理戸数
民間	76団地	1527戸
UR(都市再生機構)	27団地	2019戸
神戸市住宅供給公社	4団地	259戸

同一敷地内に契約満了年度が異なる住棟がある住宅があるため、団地数の合計は一致しない。

現在借上住宅に居住している住民は、継続居住ではなく、他の市営住宅への移転が前提になっています。

借上住宅の被災者は、震災で自宅を失い（1回目）、長く生活した避難所から立ち退き（2回目）、数年経って仮設住宅から追い出され（3回目）、そして、公営住宅に入ったが、借上公営住宅に入っている3085戸の世帯は、また移転（4回目）にあうかもしれません。

復興公営住宅の高齢化率は50.8%、また、入居者に占める高齢単身世帯は44.8%というデータがあります。被災時から居住する住民が高齢化しています。

特に高齢の方にとって、今の住まいで新しく築き、20年間で慣れ親しんできた地

域コミュニティから離れ、また一から関係づくりをしていくことは大変だと想像できます。人と人の繋がりコミュニティが地域の力になるということを経験まちづくりの中で学びました。一方的に住み替えではなく、せめて災害復興公営住宅として入居した人だけでも相談の上、継続居住の道はないものかと思います。（宮定）

神戸市の他、兵庫県2289戸、尼崎市120戸、西宮市447戸、伊丹市42戸、宝塚市30戸の借上住宅を管理している。（神戸新聞2010年9月29日朝刊より）

大地のつぶやき

「老台北こと蔡焜燦さんに会って」

去る七月二十四日、台北縣淡水鎮の完成した古民家に係った大工さんや長田の震災被災者、まち・コミメンバー及び先生方総勢十八名と台湾側のボランティアや関係者が大勢集まり盛大な交流会を行った。工事中の前庭で日本から小森さんが持参した鯉幟を掲げた。鎮長の蔡葉偉さん、蔡焜燦さん、小森さん、私も一緒にロープを引っ張った。司馬遼太郎さんの名著「台湾紀行」の水先案内人として彼の有名な老台北の蔡焜燦さんである。老台北さんは突然大きな声で「薨の波と雲の波 重なる波の中空を 橘香る朝風に 高く泳ぐや鯉幟」と、「開ける広きその口に 舟をも呑まん様見えて・・・」途中まで歌って「君歌えよ俺は忘れた」と言わんばかりに見つめられた。こっちだつて幼い頃兄が歌っているのを聞いて覚えてたうろ覚えで人の後をつけて歌えても歌詞は覚えていない。慌ててランランラララランラランラと調子を取っていたら、老台北さんも一緒に口吟んでいた。しまった！これが許されるなら一同で稽古して披露すべきだったと後悔しきり。さて部屋に入って私は「解体から今日まで六年の紆余曲折は決して無駄ではなかった。昭和十八年八千四百名余の選ばれた少年たちが台湾から神奈川県にあった高座海軍工廠に来て戦闘機雷電を造っていたことを知っただけでも価値のある六年だった」と挨拶したら、老台北さんの挨拶で返って来た。「私は少年工の試験に落ちて少年航空兵で奈良航空隊に入り戦後帰台する迄の一時を京都の美山町で炭焼きをしました。田中さん、少年工が台湾万葉集でこう詠みましたが知っていますか。北に向き年の始めの祈りなり心の祖国に栄あれかし」と。作家の阿川弘之さんが感涙した心の祖国の歌だ。高座会の石川公弘さんからはもうひとつ聞いていた。「朝夕にひたすら祈るは台湾の平和なること友の身のこと」。悔しいことにその場で思い出せなかった。老台北さんの日本に寄せる思いが切々と伝わってくる。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

7/1 ~ 8/31

- | | | |
|------------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 7/2 まち・コミ打合せ | 7/21 まち・コミ打合せ | |
| 7/5 中国語講座 | 7/21 陳舜臣氏寄贈本シール貼り | 8/25 まち・コミ打合せ |
| 7/13 WEB会議(第6回) | 7/23 ~ 27 | 8/25 ~ 明石高専上田淳史君
インターンシップ受入 |
| 7/13 まち・コミ記録誌編集委員会
(第3回) | 台日交流古民家完成体験ツアー | 8/30 防災科学技術研究所被災者
ヒアリング調査の打合せ |
| 7/14 第2回区民まちづくり会議
(長田区)出席 | 8/2 まち・コミ記録誌編集委員会
(第4回) | 8/31 関東都市学会
9月ニュース発送作業 |
| 7/15 中国語講座 | 8/5 震災学習(下関市立吉見中) | |
| 7/19 丹波黒の枝豆収穫 | 8/11 出石市民農園 | |
| | 8/20 まち・コミ打合せ | |

ご支援、ありがとうございます。

7/1 ~ 8/31

賛助会員(新規・継続)

下土居希(東京都) 安田正(兵庫県) 鈴木和博(新潟県) 神戸芸術工科大学(兵庫県) 古殿宣敬(兵庫県)
 原田元基(兵庫県) 西浦英子(兵庫県) 陳浩明(大阪府) 田嶋民子(兵庫県) 松場登美(島根県)
 舟橋國男(大阪府) 西條遊児(兵庫県) 早坂文明(宮城県) 山本茂一(愛知県) 津久井進(兵庫県)
 桂光子(兵庫県) 岡本俊雄(愛媛県) 高谷克人(東京都) 谷川一成(兵庫県) 室崎益輝(京都府)
 栗原昭顕(広島県) 田中邦彦(兵庫県) 麻生克郎(兵庫県) 津田四郎(兵庫県) 入口方(兵庫県)
 平田賢一(東京都) 笹岡賢司(静岡県) 熊田俊郎(東京都) 池田寛(香川県) 吉川俊雄(山口県)
 船橋晴俊(神奈川県) 森勢郁生(東京都) 大島英司(東京都) 菅磨志保(大阪府) 池田清(兵庫県)
 北後明彦(兵庫県) 関口千鶴子(兵庫県) 増村光俊(京都府) 野口磐之(兵庫県)

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 9月13・14日に、まち・コミの記録誌についてご相談する合宿を開催しました。15年をまとめるのって、大事ですが大変なことです。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2010年9月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/